

愛称：メインパートナー グローバル資産分散オープン

マンスリー・レポート

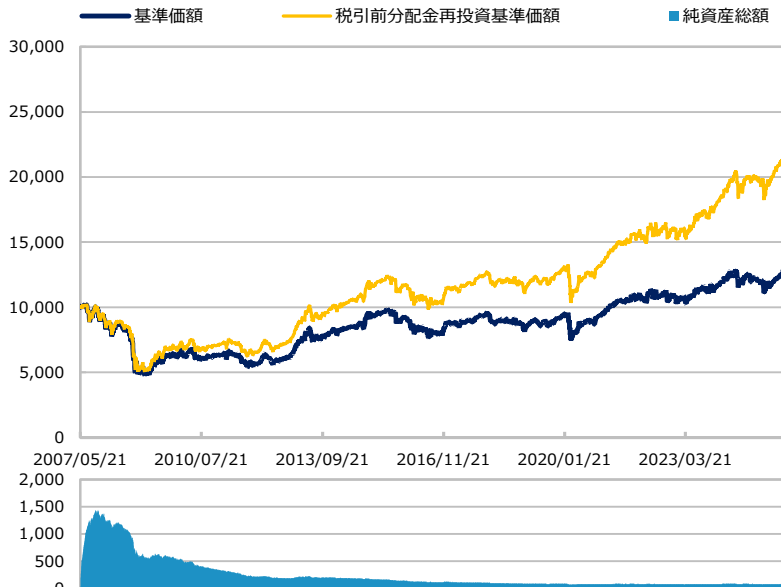
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年11月28日

ファンド設定日：2007年05月22日

日経新聞掲載名：メイン

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	13,047	+32
純資産総額（百万円）	8,102	+26

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1 カ月	2025/10/31	2.6
3 カ月	2025/08/29	8.8
6 カ月	2025/05/30	15.7
1 年	2024/11/29	15.4
3 年	2022/11/30	41.6
設定来	2007/05/22	126.7

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第107期	2025/03/27	30
第108期	2025/05/27	300
第109期	2025/07/28	30
第110期	2025/09/29	30
第111期	2025/11/27	300
設定来累計		5,030

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

基準価額の変動要因（円）

	寄与額
米国債券	-2
欧州債券	+24
アジア・オセアニア債券	+20
新興国債券	+29
ハイ・イールド債券	-8
日本株式	+92
先進国株式	+58
新興国株式	+57
世界REIT	+55
コモディティ	+23
分配金	-300
その他	-16
合計	+32

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

運用概況

当月末の基準価額は、13,047円（前月比+32円）となりました。当月は10,000口当たり300円の分配（税引前）を実施しました。

また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は、+2.6%となりました。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



愛称：メインパートナー グローバル資産分散オープン

マンスリー・レポート

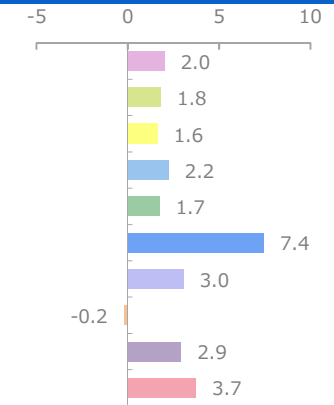
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年11月28日

組入投資信託の騰落率（％）

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
米国債券	2.0	8.0	12.2	7.4	22.1	108.9
欧州債券	1.8	7.3	11.6	14.1	37.6	86.8
アジア・オセアニア債券	1.6	6.0	9.5	8.9	25.4	105.7
新興国債券	2.2	11.2	19.7	15.9	52.0	244.5
ハイ・イールド債券	1.7	7.1	10.9	6.9	25.5	132.6
日本株式	7.4	10.7	23.4	31.6	97.0	297.4
先進国株式	3.0	9.3	19.8	25.0	73.9	302.5
新興国株式	-0.2	15.9	26.1	26.2	38.1	72.4
世界REIT	2.9	7.6	13.6	12.1	42.2	154.3
コモディティ	3.7	13.1	17.8	17.8	20.7	7.5

当月騰落率（％）



※ 米国債券、ハイ・イールド債券、新興国株式は米ドル建外国投資法人であり、騰落率はメインパートナーの基準価額の算出方法に合わせて、円換算した数値です。

資産構成比率（％）

	基本配分	当月末	基本配分との差	前月比
債券	50.0	49.6	-0.4	+0.1
米国債券	10.0	10.1	+0.1	+0.2
欧州債券	10.0	10.1	+0.1	+0.1
アジア・オセアニア債券	10.0	9.6	-0.4	+0.1
新興国債券	10.0	9.9	-0.1	-0.6
ハイ・イールド債券	10.0	9.9	-0.1	+0.2
株式	30.0	29.4	-0.6	-1.0
日本株式	10.0	10.0	+0.0	+0.3
先進国株式	15.0	14.6	-0.4	-0.6
新興国株式	5.0	4.7	-0.3	-0.7
その他	20.0	19.7	-0.3	+0.2
世界REIT	15.0	14.7	-0.3	+0.0
コモディティ	5.0	4.9	-0.1	+0.2
現金等	0.0	1.4	+1.4	+0.8
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

組入上位10通貨（％）

	当月末	前月比
1 アメリカドル	48.5	-0.8
2 ユーロ	14.8	+0.4
3 日本円	13.1	+0.2
4 オーストラリアドル	5.3	-0.1
5 イギリスポンド	3.7	+0.0
6 シンガポールドル	2.7	+0.0
7 ニュージーランドドル	2.4	+0.0
8 香港ドル	2.2	-0.3
9 マレーシアリンギット	1.8	-0.0
10 台湾ドル	0.5	-0.1

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：メインパートナー グローバル資産分散オープン

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年11月28日

※ このページは、ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

米国債券：ティー・ロウ・プライス・ファンズSICAV－USアグリゲート・ボンド・ファンド（Jdmクラス）

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1か月	2025/10/31	2.0
3か月	2025/08/29	8.0
6か月	2025/05/30	12.2
1年	2024/11/29	7.4
3年	2022/11/30	22.1
組入開始来	2007/05/22	108.9

※ 当組入投資信託証券は米ドル建外国投資法人です。
※ 騰落率は、メインパートナーの基準価額の算出方法に合わせて、円換算した数値です。分配金込みで算出しています。

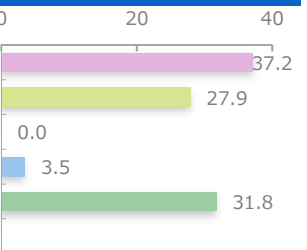
ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
デュレーション（年）	6.0	-0.1
直接利回り（％）	4.0	-0.1
最終利回り（％）	4.6	-0.1
平均格付け	AA-	AA-
組入銘柄数	695	-38

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、組入投資信託にかかる格付けではありません。
※ 左記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

種別構成比率（％）

	当月末	前月比
国債	37.2	+0.2
MBS	27.9	+0.9
政府機関債	0.0	+0.1
ABS	3.5	+0.7
事業債	31.8	-0.1



欧州債券：欧州債券マザーファンド

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1か月	2025/10/31	1.8
3か月	2025/08/29	7.3
6か月	2025/05/30	11.6
1年	2024/11/29	14.1
3年	2022/11/30	37.6
組入開始来	2007/05/23	86.8

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
デュレーション（年）	6.9	-0.1
直接利回り（％）	3.0	+0.0
最終利回り（％）	3.2	+0.0
平均格付け	AA-	AA-
組入銘柄数	64	+1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、組入投資信託にかかる格付けではありません。
※ 左記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 イタリア	16.4	+0.0
2 イギリス	9.3	+0.0
3 スペイン	8.7	-0.1
4 フランス	8.7	-0.0
5 チェコ	7.4	+0.0



※ 当ページに記載されている構成比を示す比率は、各組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ 新興国債券については、ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

アジア・オセアニア債券：アジア・オセアニア債券マザーファンド

騰落率（税引前分配金再投資）（％）		
	基準日	ファンド
1ヵ月	2025/10/31	1.6
3ヵ月	2025/08/29	6.0
6ヵ月	2025/05/30	9.5
1年	2024/11/29	8.9
3年	2022/11/30	25.4
組入開始来	2007/05/23	105.7

ポートフォリオ特性値		
	当月末	前月比
デュレーション（年）	2.0	-0.1
直接利回り（％）	2.5	+0.0
最終利回り（％）	2.8	+0.1
平均格付け	AA+	AA+
組入銘柄数	10	0

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、組入投資信託にかかる格付けではありません。

※ 左記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5通貨（％）

	当月末	前月比	
1 オーストラリアドル	26.5	-0.3	26.5
2 ニュージーランドドル	24.9	-0.1	24.9
3 マレーシアリンギット	18.7	+0.3	18.7
4 シンガポールドル	12.1	+0.0	12.1
5 香港ドル	10.6	+0.0	10.6

新興国債券：新興国債券マザーファンド

騰落率（税引前分配金再投資）（％）		
	基準日	ファンド
1ヵ月	2025/10/31	2.2
3ヵ月	2025/08/29	11.2
6ヵ月	2025/05/30	19.7
1年	2024/11/29	15.9
3年	2022/11/30	52.0
組入開始来	2007/05/22	244.5

ポートフォリオ特性値		
	当月末	前月比
デュレーション（年）	6.8	+0.0
直接利回り（％）	6.2	+0.2
最終利回り（％）	6.5	+0.1
平均格付け	BB+	BB+
組入銘柄数	234	-1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、組入投資信託にかかる格付けではありません。

※ 左記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比	
1 メキシコ	8.7	+0.2	8.7
2 コロンビア	5.0	-0.6	5.0
3 ブラジル	4.8	-0.3	4.8
4 トルコ	4.7	+0.6	4.7
5 ルーマニア	4.3	+0.3	4.3

※ 当ページに記載されている構成比を示す比率は、各組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：メインパートナー グローバル資産分散オープン

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年11月28日

※ ハイ・イールド債券については、ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

ハイ・イールド債券：ティー・ロウ・プライス・ファンズSICAV－グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（Jdmクラス）

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1ヵ月	2025/10/31	1.7
3ヵ月	2025/08/29	7.1
6ヵ月	2025/05/30	10.9
1年	2024/11/29	6.9
3年	2022/11/30	25.5
組入開始来	2007/05/22	132.6

※ 当組入投資信託証券は米ドル建外国投資法人です。
※ 騰落率は、メインパートナーの基準価額の算出方法に合わせて、円換算した数値です。分配金込みで算出しています。

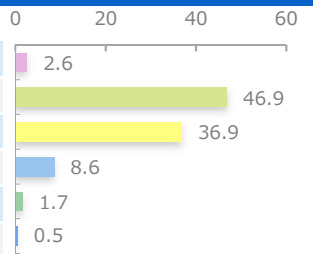
ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
デュレーション（年）	2.8	-0.2
直接利回り（％）	7.2	+0.1
最終利回り（％）	7.1	+0.0
平均格付け	B+	B+
組入銘柄数	375	-9

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、組入投資信託にかかる格付けではありません。
※ 左記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

格付構成比率（％）

	当月末	前月比
BBB以上	2.6	-0.3
BB	46.9	-1.7
B	36.9	-0.5
CCC以下	8.6	-0.2
格付けなし	1.7	+0.2
その他	0.5	+0.2



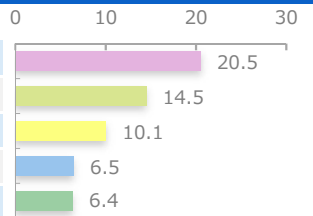
日本株式：日本好配当株マザーファンド

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1ヵ月	2025/10/31	7.4
3ヵ月	2025/08/29	10.7
6ヵ月	2025/05/30	23.4
1年	2024/11/29	31.6
3年	2022/11/30	97.0
組入開始来	2007/05/22	297.4

組入上位5業種（％）

	当月末	前月比
1 建設業	20.5	+0.0
2 不動産業	14.5	+0.4
3 陸運業	10.1	-0.2
4 食料品	6.5	+0.2
5 電気・ガス業	6.4	+1.8



組入上位5銘柄（％）

（組入銘柄数 57）

銘柄	業種	比率
1 インフロンティア・ホールディングス	建設業	5.0
2 日本たばこ産業	食料品	4.7
3 野村不動産ホールディングス	不動産業	4.1
4 電源開発	電気・ガス業	3.9
5 ヒューリック	不動産業	3.9

※ 当ページに記載されている構成比を示す比率は、各組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：メインパートナー グローバル資産分散オープン

マンスリー・レポート

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年11月28日

※ 新興国株式については、ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

先進国株式：グローバル好配当株マザーファンド

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1ヵ月	2025/10/31	3.0
3ヵ月	2025/08/29	9.3
6ヵ月	2025/05/30	19.8
1年	2024/11/29	25.0
3年	2022/11/30	73.9
組入開始来	2007/05/22	302.5

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 アメリカ	31.5	+0.4
2 フランス	13.3	+0.2
3 日本	11.9	-0.0
4 スペイン	10.8	+0.3
5 オーストラリア	5.1	-0.1

組入上位5銘柄（％）

（組入銘柄数 54）

銘柄	国・地域	比率
1 トタルエナジーズ	フランス	5.1
2 SITCインターナショナル・ホールディングス	香港	4.4
3 DBSグループ	シンガポール	4.0
4 B B V A	スペイン	3.8
5 台湾セミコンダクター	台湾	3.3

新興国株式：ティー・ロウ・プライス・ファンズSICAV－エマージング・マーケット・エクイティ・ファンド（Jdqクラス）

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1ヵ月	2025/10/31	-0.2
3ヵ月	2025/08/29	15.9
6ヵ月	2025/05/30	26.1
1年	2024/11/29	26.2
3年	2022/11/30	38.1
組入開始来	2007/11/01	72.4

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 中国	26.2	-0.0
2 台湾	17.3	-0.7
3 インド	15.3	+1.2
4 韓国	13.5	-2.1
5 ブラジル	5.6	+0.4

※ 当組入投資信託証券は米ドル建外国投資法人です。
※ 騰落率は、メインパートナーの基準価額の算出方法に合わせて、円換算した数値です。分配金込みで算出しています。
※ 2007年11月に組入れを開始しました。

組入上位5銘柄（％）

（組入銘柄数 83）

銘柄	国・地域
1 Taiwan Semiconductor Manufacturing	台湾
2 Samsung Electronics	韓国
3 Tencent Holdings	中国
4 SK Hynix	韓国
5 Alibaba Group Holding	中国

※ 組入比率は、エマージング・マーケット・エクイティ・ファンドの開示基準により、非開示となります。

※ 当ページに記載されている構成比を示す比率は、各組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：メインパートナー グローバル資産分散オープン

マンスリー・レポート

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年11月28日

世界REIT（含む日本）：世界REITマザーファンド

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1ヵ月	2025/10/31	2.9
3ヵ月	2025/08/29	7.6
6ヵ月	2025/05/30	13.6
1年	2024/11/29	12.1
3年	2022/11/30	42.2
組入開始来	2007/05/23	154.3

組入上位5カ国・地域（%）

	当月末	前月比
1 アメリカ	34.2	+0.1
2 イギリス	16.5	-0.1
3 オーストラリア	13.8	-0.1
4 日本	11.5	-0.5
5 フランス	10.7	+1.3



組入上位5銘柄（%）

（組入銘柄数 64）

銘柄	国・地域	比率
1 WELLTOWER INC	アメリカ	7.7
2 LONDONMETRIC PROPERTY PLC	イギリス	5.1
3 KLEPIERRE	フランス	4.5
4 STOCKLAND	オーストラリア	4.3
5 UNIBAIL-RODAMCO-WESTFIELD	フランス	3.7

コモディティ：コモディティ・マザーファンド

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1ヵ月	2025/10/31	3.7
3ヵ月	2025/08/29	13.1
6ヵ月	2025/05/30	17.8
1年	2024/11/29	17.8
3年	2022/11/30	20.7
組入開始来	2007/05/23	7.5

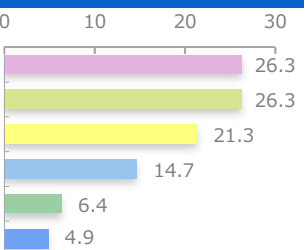
組入上位5通貨（%）

	当月末	前月比
1 アメリカドル	96.7	-0.2



ブルームバーグ商品指数SM構成比率（%）

	当月末	前月比
エネルギー	26.3	-0.3
貴金属	26.3	+1.0
穀物	21.3	+0.1
非鉄	14.7	-0.3
農作物	6.4	-0.1
畜産物	4.9	-0.4



※ 原則として、当レポート作成基準日の前日の値です。

※ 上記のブルームバーグ商品指数SMの基本構成比は、時価の変動により日々変化します。

※ 当ページに記載されている構成比を示す比率は、各組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ファンドマネージャーコメント

資産配分については、概ね基本配分どおりの組み入れとなっています。

米国では、FRB（米連邦準備制度理事会）当局者によるハト派（景気を重視する立場）的な発言などから長期金利（10年国債利回り）は低下しました。欧州では、ドイツ政府が当初案を上回る予算案を承認したことなどが金利上昇要因となり、長期金利（ドイツ10年国債利回り）は概ね横ばいとなりました。

日本株式市場は、鉱業、不動産業、建設業などを中心に上昇しました。

先進国株式市場は、日中関係の悪化懸念などを受けて下落する局面もありましたが、月を通してみると概ね横ばいとなりました。

REIT（不動産投資信託）市場は、各国でまちまちな動きとなりました。

為替市場はFRB高官のタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な発言や日本の財政悪化懸念などから米ドル高・円安となりました。ユーロも対円で上昇しました。

基準価額は、組入投資信託証券別に見ると、日本株式、先進国株式、新興国株式などを中心にプラスリターンとなりました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

ファンドマネージャーコメント

＜米国債券市場＞

米国債券市場は4ヵ月連続でプラスのリターンとなりました。月後半にはFRB（米連邦準備制度理事会）当局者によるハト派（景気を重視する立場）的な発言が見られ、その発言を背景に金融緩和への期待が高まり、投資家心理を押し上げました。米国債利回り曲線は、30年債を除きほとんどの年限で利回りが低下したことからスティーブニング（長短金利差の拡大）しました。

＜欧州債券市場＞

11月の欧州債券市場は横ばいとなりました。金利は幅広く上昇し、特にドイツ長期金利（10年国債利回り）の上昇が目立ちました。ドイツ政府が当初案よりも80億ユーロ借り入れ増の2026年予算案を承認したことが金利の上昇圧力となりました。米国政府の閉鎖が終了し、市場心理が改善したことも金利の上昇要因となりました。

＜アジア・オセアニア債券市場＞

アジア・オセアニア債券市場はまちまちとなりました。緩和サイクルの終焉が意識されたオセアニアや韓国などでは金利は上昇しました。一方でマレーシアなどでは、米金利の低下やインフレ指標の下振れなどを背景に金利は低下しました。

＜新興国債券市場＞

新興国債券市場は小幅に上昇しました。ハイ・イールド債は投資適格債をアウトパフォームしました。アフリカが牽引する形で多くの地域でプラスになりましたが、中東は小幅に下落しました。

＜ハイ・イールド債券市場＞

ハイ・イールド債券市場は上昇しました。マクロ経済環境の改善に加え、FRBが利下げを行うとの楽観的な見方が広がったことを背景に、幅広いリスク資産の上昇を促しました。

＜日本株式市場＞

日本株式市場は上昇しました。上旬は米ハイテク株安を受けてAI関連株中心に高値警戒感が強まった一方、米政府機関の再開期待などから一進一退となりました。中旬は好業績銘柄への物色から上昇する場面もありましたが、日中関係の悪化懸念や米追加利下げ期待の後退などから上昇分を打ち消しました。下旬はFRB高官の発言を

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ファンドマネージャーコメント

受けて再び利下げ期待が高まったことが投資家心理を改善させ、上昇しました。

＜先進国株式市場＞

先進国株式市場は、前月末と比較して概ね横ばいとなりました。米国では前月に史上最高値を更新していたS&P500インデックスなどの主要指数は、年内の追加利下げ期待が後退するにつれて、調整圧力が強まりました。政府機関の再開観測を受けて一旦は持ち直したものの、FRB高官のタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的なコメントに加えて、エヌビディアの四半期決算の発表を控えて、利食い売りが優勢となりました。その後、政府機能の再開に伴い、景気や物価動向に対する安心感から月末にかけて上昇しました。欧州では小幅に上昇しました。域内景気や企業決算に明るい動きが見られた一方で、米国の年内追加利下げ期待の後退や日中関係の悪化懸念などがマイナス要因となり、米国市場に追随した動きとなりました。

＜新興国株式市場＞

新興国株式市場は下落しました。11ヵ月ぶりの反落となり、先進国株式市場を下回りました。米国の早期追加利下げ期待が後退したことや、これまでの市場の牽引役であったAI（人工知能）関連銘柄への過熱感が警戒され、調整が目立ちました。代表的な新興国株価指数では、台湾と韓国はAI関連銘柄が多いことから反落しました。また、中国は低調な経済指標の発表が続き、景気減速が懸念されて続落しました。一方、南アフリカは、銀などの貴金属の上昇を受けて鉱山関連銘柄を中心に上昇しました。

＜世界REIT（不動産投資信託）市場＞

米国リート市場はヘルスケアリートとホテルリートが牽引し上昇しました。欧州リート市場は英国、欧州大陸ともに個別にはまちまちの展開でしたが、双方為替の貢献もあり上昇しました。アジア・パシフィックリート市場は香港、豪州が軟調に推移したものの、好調なオフィス市況を背景に日本が牽引し小幅上昇となりました。

＜コモディティ（商品）市場＞

コモディティ市場は上昇しました。米国資産への信認低下や地政学リスク等で買いが継続した貴金属、米国の寒波の兆しや出荷増と生産減に伴う需給逼迫懸念の天然ガス、中国による米国産大豆購入が買い材料視された大豆油が上昇しました。一方、需給逼迫懸念で年初来から上昇した反動売りの生牛、OPECプラス（OPECとロシアなど非加盟国）の増産観測や中国の景気回復の遅れ等が売り材料視された原油や石油製品が下落しました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ファンドの特色

1. 投資信託証券への投資を通じて、先進国から新興国までの幅広い地域の債券、株式、REIT（不動産投資信託）およびコモディティ等へ実質的に分散投資し、安定した利子・配当収益の確保とともに、信託財産の中長期的な成長を目指します。

- 実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。
- 分散投資にあたっては、資産の分散・地域の分散などを考慮します。

＜当ファンドが投資対象とする資産・投資対象＞

〔債券〕：米国債券、欧州債券、アジア・オセアニア債券、新興国債券、ハイ・イールド債券

〔株式〕：日本株式、先進国株式、新興国株式

〔REIT・コモディティ〕：世界REIT、コモディティ

※将来、投資環境に応じて投資対象資産の追加・変更を行う場合があります。

- 投資信託証券への投資は、主に各資産を主要投資対象とする以下の投資信託証券（以下「指定投資信託証券」といいます。）の中から行います。

米国債券	： ティー・ロウ・プライス・ファンズSICAV－USアグリゲート・ボンド・ファンド（Jdmクラス）
欧州債券	： 欧州債券マザーファンド
アジア・オセアニア債券	： アジア・オセアニア債券マザーファンド
新興国債券	： 新興国債券マザーファンド
ハイ・イールド債券	： ティー・ロウ・プライス・ファンズSICAV－グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（Jdmクラス）
日本株式	： 日本好配当株マザーファンド
先進国株式	： グローバル好配当株マザーファンド
新興国株式	： ティー・ロウ・プライス・ファンズSICAV－エマージング・マーケット・エクイティ・ファンド（Jdqクラス）
世界REIT	： 世界REITマザーファンド
コモディティ	： コモディティ・マザーファンド

※上記の指定投資信託証券の全てに投資することを約束するものではありません。

※指定投資信託証券は、将来、投資環境に応じて追加または変更になる場合があります。

2. 各資産への配分は、信託財産の純資産総額に対し、概ね「債券：50%程度、株式：30%程度、REIT・コモディティ：20%程度」を基本資産配分とします。

3. 年6回の分配を目指します。

- 決算日は、毎年1、3、5、7、9、11月の27日（休業日の場合は翌営業日）とします。
- 毎年5月および11月の決算時には、基準価額水準などを考慮し、売買益（評価益を含みます。）等を中心に分配する場合があります。
- 委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※ 資金動向、市況動向等によっては、あるいはやむを得ない事情が発生した場合には上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

投資リスク

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。

■ 不動産投資信託（リート）に関するリスク

【リーートの価格の下落は、基準価額の下落要因です】

リーートの価格は、不動産市況や金利・景気動向、関連法制度の変更等の影響を受け変動します。また、リートに組み入れられている個々の不動産等の市場価値や賃貸収入、個々のリーートの事業活動や財務状況等によっても価格が変動します。これらにより、ファンドが組み入れているリーートの価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 商品市況の価格変動に伴うリスク

【商品市況の下落は、基準価額の下落要因です】

商品市況は、多くの要因により変動します。要因の主なものとしては、対象となる商品の需給、貿易動向、天候、農業生産、商品産出地域の政治・経済情勢、疫病の発生などが挙げられます。このため、商品の動向を表わす各種商品指数も、商品市況の変動の影響を受けます。さらに、指数を対象にした先物等の市場では、流動性の不足、投機的参加者の参入、規制当局による規制や介入等により、一時的に偏りや混乱を生じることがあります。

当ファンドは商品指数に連動した債券等に投資しますので、これらの影響を受けます。商品市況が下落した場合、ファンドの基準価額も下落するおそれがあります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。



投資リスク

その他の留意点

- 当ファンドの実質的な資産配分は、基本的な資産配分比率と乖離を生じる場合があります。この結果、運用成果は、基本資産配分で運用を行った場合を上回ったり下回ったりすることがありますので、ご注意ください。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。



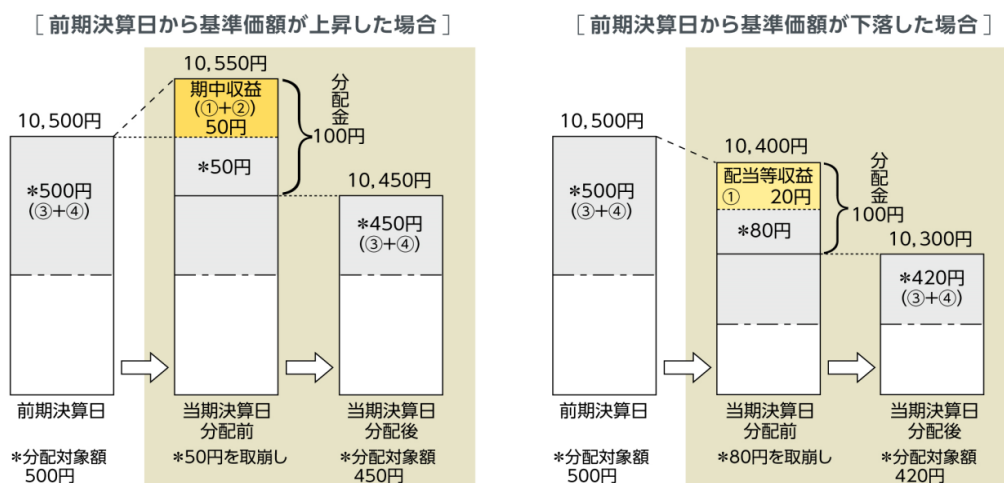
分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

〔計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合〕



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。

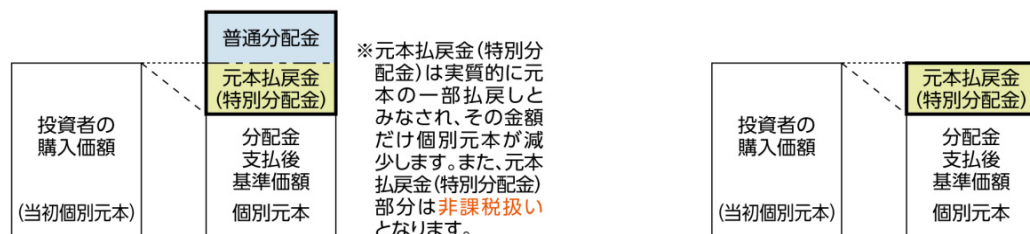
分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※ 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

〔分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合〕

〔分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合〕



普通分配金：個別元本（投資者のファンド購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2007年5月22日設定）

決算日

毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の27日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの対象ではありません。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に3.30%（税抜き3.00%）を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に年1.584%（税抜き1.44%）の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 【受付時間】 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。
投資顧問会社	マザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、信託財産の運用を行います。 ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド、シービーアールイー・インベストメントマネジメント・リステッドリアルアセット・エルエルシー

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本投資顧問業協会	金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第54号	○	○	○		※1

備考欄について

※1：新規の募集はお取り扱いしておりません。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。